



“目の不自由な人の歩行支援を”

01月22日 18時53分



まちを歩く際に困っている目の不自由な人への声のかけ方などをまとめたパンフレットを、視覚障害者の支援活動をしているNPO法人がこのほど作成し、22日、JR岐阜駅前で配りました。

パンフレットを作成したのは視覚障害者の日常生活の支援活動をしている岐阜市のNPO法人「ういすたりあぶっく」で、22日、岐阜市のJR岐阜駅前でメンバーなど約20人が配りました。

パンフレットでは目の不自由な人と一緒に歩くときは、杖を持つ手の反対側に立ってひじを持ってもらうことや例えば目標などを伝える際は「改札は右前10メートル」などと方向や距離を具体的に説明することが望ましいなどと説明しています。

NPO法人では市の補助金を利用して、このパンフレットを約1000部作成したということです。

代表で自身も視覚障害者だという藤本明成さん（57）は「1人で街を歩くと、ふとした瞬間に方向が分からなくなって困ることが多いです。そういうときに誰かが助けてくれるような社会になってほしいという気持ちで作りました」と話していました。